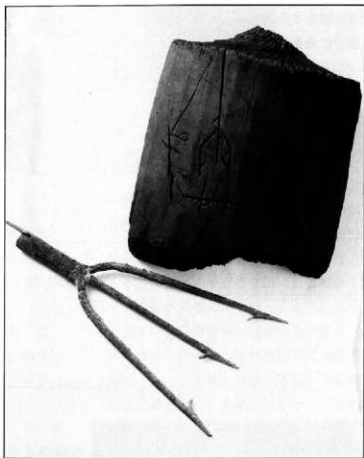




# 富山市の遺跡物語



水橋金広・中馬場遺跡から出土した  
線刻のある木摺臼と金属製ヤス

写真の右上は江戸時代前期に掘られた井戸の底に、水溜めとして再利用されて出土した農具の木摺臼の下臼で、側面に線刻画が描かれていました。ヤスで魚を突く様子を描いたものや釣り針で魚を釣る様子を描いたものなどがあります（p7参照）。

左下は室町時代～江戸時代前期にかけて使われていた道路側溝（幅約3m）から出土した金属製ヤスです。三叉ヤスとよばれるもので、金属部の長さが約38cm、重さが約500gもある大型のものです。カスガイが付いており、1m前後の短い柄が装着され、河川での大型漁捕獲用の漁具として利用されていたと考えられます。

遺跡は白岩川の右岸に立地しており、川魚漁に深く関わっていた人々が生活を営んでいたものと思われます。線刻画は、それらの人々が豊漁を祈願し、豊穡の“象徴”でもある木摺臼にヤスなどを描いたのではないのでしょうか。

## 市指定文化財に！遺跡保存の基本構想まとまる

## 奈良 栢谷南遺跡

平成10年度に発掘調査を行った栢谷南遺跡からは、奈良時代前半期(約1,300年前)に瓦と須恵器を焼いた窯跡が検出されました。瓦や須恵器などを大量に捨てた灰原及び粘土採掘穴、掘立柱建物、井戸跡など窯業生産に関わる遺構が良好に遺存していました。

また、これまで県内で出土していない文様の200点を越す大量の軒丸瓦や、鐘状銅製品、透彫り木製品などの古代仏教遺物、仏具を模倣した須恵器などが出土しました。当時

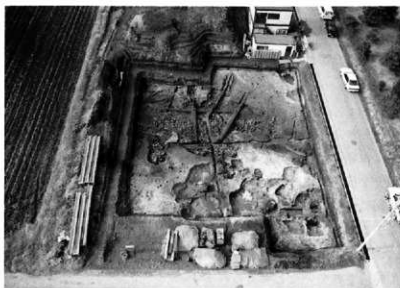
瓦は、寺院や官衙(役所)など公的施設に限られており、その供給先がどこにあるのか注目されます。透彫り木製品には漆が塗られ、対葉花文と呼ばれる奈良時代に造東大寺司で流行した文様が透彫りされていました。さらに、度量衡に用いられる土製の分銅である土製権衡が灰原から出土しました。当時重さの単位は、税を徴収するための基準となるため、公の機関でしか取り扱うことができないようになっており、窯が公的機関の管理下で操業されていたものと推定されます。

このように遺跡は、奈良時代前半期の窯業生産体制や越中国への仏教文化浸透の実情を解明する上で重要であり、平成12年4月25日富山市指定文化財(史跡)として指定を受けました。

これに先立ち、貴重な文化遺産を保存・整備し、広く市民に活用していただくために、窯跡など重要な遺構が所在する部分を平成11年7月に公有地化を行いました。



蓮華文軒丸瓦



発掘調査地近景(東から)

さらに、保存・整備方法を検討するため、平成11年12月に栢谷南遺跡保存委員会を設置し、学識経験者や地元代表者、行政の方々で構成されます委員会を12年度までに4回開催しました。委員会では今後の遺跡の調査方針や、遺跡の保存についての基本理念・基本構想が答申されました。

栢谷南遺跡を恒久的に保存し、地元や市民の憩いの場とし

て親しまれ、学校教育や歴史学習の場として活用を図るため、以下の方針が基本構想に盛り込まれました。

(1)遺跡範囲や遺構の遺存状況を調査し、その全容解明に努める。(2)調査に基づく遺構の復元や平面表示を行う。(3)遺跡の歴史的意義などが理解できるよう近隣にガイダンス施設を設け



保存委員会での検討

る。(4)北代縄文広場や、民俗民芸村考古資料館とともに市民の歴史学習や体験学習の一翼を担う。(5)案内標識、駐車場、<sup>トイレ</sup>東屋、便所、緑地空間を設けて、市民の憩いの場として整備する。(6)西インターに近接する立地条件を生かし、市内の遺跡や文化施設への誘導案内、情報の窓口としての機能をもつように整備する。(鹿島昌也)

### 栃谷南遺跡これまでの主な経過

- ・平成10年4月～平成11年1月 栃谷南遺跡発掘調査
- ・平成10年10月 遺跡見学会開催 県内外から540人の見学者が訪れる
- ・平成10年10月 富山市役所1階多目的コーナーにて遺跡出土品写真パネル展示
- ・平成10年10月 文化庁調査官発掘調査地視察
- ・平成11年2～3月 遺跡範囲を確認するための試掘調査及び窯跡の型取りを行う
- ・平成11年7月 重要遺構が所在する約1,425㎡を取得
- ・平成11年12月 栃谷南遺跡保存委員会設置
- ・平成12年4月25日 富山市指定文化財(史跡)に指定
- ・平成12年11月10日 栃谷南遺跡保存の基本理念・基本構想答申

### 栃谷南遺跡保存委員会委員等名簿

	氏名	所属
アドバイザー	坂井秀弥	文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官
アドバイザー	林 清文	富山県教育委員会文化財課課長
委員長	楠瀬 勝	富山市文化財調査審議会委員長
副委員長	小島俊彰	金沢美術工芸大学教授／富山市文化財調査審議会委員
委員	上原真人	京都大学大学院教授
委員	富成哲也	高槻市教育委員会文化財課課長
委員	西井龍儀	富山考古学会副会長
委員	岸本雅敏	富山県埋蔵文化財センター所長
委員	京田良志	富山市文化財調査審議会委員
委員	村藤政雄	古沢校下自治振興会会長
委員	北野久夫	栃谷自治会会長

## 第1回「奈良時代の富山を探る」フォーラム開催

近年、富山市柳谷南遺跡の瓦陶兼窯から200枚以上の軒丸瓦が出土し、大きな話題となりました。また、古代の官衙（役所）跡と思われる水橋荒町・辻ヶ堂遺跡や米田大覚遺跡など重要な遺跡の発掘調査が相次いでいます。このような新たな発掘調査の成果や考古学に対する市民の関心の高まりを契機として、「奈良時代の富山を探る」フォーラムを平成12年度から3か年の予定で開催することといたしました。

富山市ではこれまで、昭和56年から平成6年にかけて「日本海文化を考える富山シンポジウム」を10回にわたり開催し、日本海文化の地域的特色について明らかにしてきました。フォーラムでは、先のシンポジウムの趣旨や成果を踏まえながら、「奈良時代の富山」という、より身近なテーマに視点を向け、古代の地域文化の特色を更に深く考察していきたいと考えています。

### ●第1回フォーラム「古代の道と駅」の概要

平成12年9月23日（土）、水橋ふるさと会館を会場に第1回「奈良時代の富山を探る」フォーラムを開催しました。テーマは「古代の道と駅」で、地元水橋の皆さんをはじめ、県内外の研究者など200名を超える参加者がありました。フォーラムは事例報告、特別講演、「古代の道と駅」についての討論会の三部構成としました。

#### □事例報告

- ・ 県内報告 小林高範（富山市教育委員会埋蔵文化財センター学芸員）  
「富山市水橋荒町・辻ヶ堂遺跡について」
- ・ 県外報告 柿田祐司（福石川県埋蔵文化財センター主事）  
「石川県津幡町加茂遺跡について～道路遺構を中心に～」
- ・ 関連報告 小松外二（福水橋郷土史料館長）「白岩川の変遷と水橋の故事伝承等について」

#### □特別講演 館野和己（奈良国立文化財研究所史料調査室長）「北陸道の駅跡と交通」

#### □フォーラム「古代の道と駅」

- 司会 吉岡康暢（国立歴史民俗博物館名誉教授）
- 講師 館野和己（奈良国立文化財研究所史料調査室長）  
柿田祐司（福石川県埋蔵文化財センター主事）  
鈴木景二（富山大学人文学部助教授）「文献からみた越中の交通」  
城岡朋洋（富山県立砺波高校教員）「奈良時代の越中と日本海」  
久々忠義（富山県埋蔵文化財センター係長）「富山県内の古代道路遺構について」



特別講演（館野和己先生）



フォーラムの様子

事例報告では、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡や石川県津幡町加茂遺跡の道路跡と発掘調査の成果がスライドを交えて紹介されました。また水橋地区の地名（小字名）や伝承についての報告がありました。

特別講演は、奈良国立文化財研究所館野和己先生による「北陸道の駅路と交通」で、官道や駅家についての概要や北陸道の特性について明らかにされました。

吉岡康暢先生司会による「古代の道と駅」フォーラムでは、5人の講師により、文献史学や考古学などの多様な視点からのアプローチがなされました。古代北陸道の規模やルート、时期的な変遷、海運や物資の流通を含めた検討といった多岐にわたる内容で会場内からも多数の意見や質問が出され、活発な討論が行われました。

現状では古代北陸道に関連する道路跡の発見例が少なく、越中においては全国的な駅路の年代変遷と道路幅の変化とは一致しない、奈良時代と平安時代ではルートが異なる可能性がある「水橋の遺跡物語」展示の様子（水橋郷土資料館）など検討課題が整理され、今後の研究につながる大きな成果を挙げることができました。なお、麻柄一志さんが富山考古学会連絡紙第165号にフォーラム参加の感想と古代北陸道に対する所見を記されています。

またフォーラムに併せ、(財)水橋郷土史料館において、関連企画展「水橋の遺跡物語」が平成12年9月12日(火)から10月9日(月)まで開催されました。水橋荒町・辻ヶ堂遺跡や清水堂南遺跡、水橋金広・中馬場遺跡など縄文時代から江戸時代にわたる水橋地区の遺跡出土品を一堂に集め、また市指定文化財「遮光器土偶」(護摩堂良春氏所蔵)を特別出品していただき、展示しました。期間中には大勢の来館者があり、大盛況でした。(小林高範)



会場ロビーでの展示の様子



「水橋の遺跡物語」展示の様子（水橋郷土資料館）

### ご案内 第2回「奈良時代の富山を探る」フォーラム開催予定

第2回「奈良時代の富山を探る」フォーラムを下記の内容で開催を予定しています。

日時：平成13年9月30日(日)10:30～16:00

場所：水橋ふるさと会館

(富山市水橋館312、TEL076-478-0019)

◎フォーラム内容

テーマ：「古代北陸の国や郡の成り立ち」  
内容：事例報告、特別講演、フォーラム

◎関連企画展 水橋郷土史料館

平成13年9月20日(水)～10月8日(月)

問い合わせ 富山市教育委員会

埋蔵文化財センターまで



## 県内最大級の大型円墳

## 若王子塚古墳

若王子塚古墳は、富山市北東部水橋地区に位置します。

新川平野の白岩川流域には、多くの古墳が形成されています。その右岸中流域には、若王子塚古墳と宮塚古墳が東西に並んで所在します。

県営農免農道整備事業に伴い、平成11年～12年度にかけて発掘調査を行いました。その結果、現在の若王子塚古墳の裾から約8m離れた位置に、幅約4～5m

の周溝を検出し、さらに古墳北側の水田部にも試掘トレンチを入れたところ、同じ幅の周溝がめぐっていることを確認しました。

これらの調査結果から若王子塚古墳は直径46mの大型円墳だったことが判明しました。上流部約2.9kmの立山町稚児塚古墳（古墳時代中期、約1,500年前、県指定史跡）も同じ規模で、共に県内最大級の円墳です。

若王子塚古墳の周溝や周辺部からは、古墳時代前期末～中期初頭（約1,600年前）の土器が出土していることから、稚児塚古墳に先立って築造されていたことを示しています。

白岩川の流域には、県内の平野部では珍しく平野部に集中して古墳が築造されます。古墳時代前期に竹内天神堂古墳（前方後方墳）、中期には清水堂古墳や塚越古墳など直径20～30m級の円墳が築造されます。これらは、平坦な土地に盛り土を行っており、多くの労働力が使われていました。古墳に葬られた被葬者は、肥沃な白岩川水系の沖積平野を基盤として台頭した首長と考えられ、その権力を誇示するために大きな古墳を築いていったものと思われます。

平成12年7月20日の現地説明会には、県内外から約200名の見学者が訪れ、約1,600年前にこの地を治めていた首長の眠る墓に想いをめぐらせていました。（鹿島昌也）



若王子塚古墳と周溝（南から）

## 川魚捕獲加工の拠点遺跡か

## 水橋金広・中馬場遺跡

若王子塚古墳の北側には、鎌倉時代から江戸時代前期（300～700年前）の集落が形成されました。（旧称HS-07遺跡）

集落内には大溝で四方を囲まれた館が形成され、館の敷地からは88基もの井戸や掘立柱建物、方形堅穴状遺構などが検出されました。館内の南側には、古墳を避けて東西に幅約2.7mの道路が設けられ、幅約3mの道路側溝からは金属製ヤスが1点出土しました（表紙参照）。先端部の開きが約19cmもあり、鮭や鱒など大型魚を捕獲するためのものと想定されます。

また、道路の南に位置する井戸の底からは、**杵すり**や**粉挽き**などに利用される**木摺臼**の下臼を逆さまにし、中を削り抜き井戸の底に**水溜め**として再利用したものが出土しました。その木摺臼の側面には、大中小さまざまなヤスや漁具のほかヤスで魚を突く様子を**動画風**に描いたものや、釣り針で魚を釣る様子を表現したと思われる**線刻画**が描かれていました。(表紙参照)

線刻画は、水溜めに再利用される前の木摺臼の段階で刻まれていたことが、ヤスで魚を上から下に向かって突いている図から推測できます。また、木摺臼の材質は**ブナ**であることが自然科学的分析によって判明しました。

農具の中で**豊稔**の象徴とされている木摺臼に漁具のヤスなどが描かれていたのは、**白岩川**での川魚漁の豊漁を祈願したものではないかと考えられます。

このようなことから、館内で検出された井戸や土坑(穴)は、川魚漁に関わる遺構ではないかと考えられます。館内には、生活に必要な数を大きく超える井戸が密集しています。井戸水は年間を通じて13~15度に水温が一定しているため、現在でも川魚を生かしておく**イケス**として利用されます。ここでは、捕獲した川魚を生かしておくための機能や、捕獲した川魚を加工するための水を確保していたことが考えられます。立山連峰からの豊富な伏流水がこんこんと湧いてくる井戸を直接イケスとして利用したり、そこから細い溝を伝い**方形堅穴状**遺構へ水を注ぎ込み、イケスとしていたりしていたのではないのでしょうか。



水溜めに転用された木摺臼

江戸時代、**明暦二年(1658年)**の河川役(特産物にかけられる税)には**白岩川**で捕獲される**鮭・鱒・鮎**漁に多くの課役(税)を納めさせており、特に遺跡の立地する**白岩川**中流域の集落では課役が多く漁獲量の多かったことを裏付けています。鮭漁は10~12月が漁期で、農繁期を終えた流域集落では組織的に漁を行っていたとみられ、その拠点となる本遺跡が川魚捕獲・加工場として深く関わっていたと考えることができます。

(鹿嶋昌也)



井戸が密集した館跡(上が北)



木摺臼の線刻画の展開図

## 中世に生きた人々の技術や祈り

## 金屋南遺跡

金屋南遺跡は、呉羽山丘陵の東側、神通川支流の井田川に面する標高約11mの自然堤防上にあります。遺跡の西側に広がる呉羽山丘陵周辺には多くの遺跡が分布しています。金屋企業団地の造成に伴って平成8年度から行っている発掘調査により、遺跡は平安時代（約1,200年前～1,000年前）、鎌倉～江戸時代（約900年前～300年前）の大集落であったことがわかりました。

鎌倉～戦国時代（約900年前～400年前）には溝で集落内を区画して、住居や倉庫などを計画的に配置していました。特に、室町時代（約600年前）には旧井田川の川べりを利用して、鉄鍋や梵鐘などの鉄・銅製品が大量に生産されていました。江戸時代の唐津焼の皿底には人名で「金屋与（右衛門?）」と墨書されたものもあります。当地の地名「金屋」に関係があると考えられます。

平成12年度は、遺跡の南東部10,500㎡を対象に発掘調査を行いました。平安時代に形成された竪穴状遺構2基、土坑2基以上が見つかりました。付近には同じ時期の畠跡が一面に広がっています。

本年度調査区は、中世集落では遺構が最も集中する地区の一つであり、倉庫跡や土坑、井戸、溝など多くの遺構が検出されました。4棟の倉庫跡のうち1棟は、柱穴の底に珠洲焼（播り鉢）の破片を三重に敷きつけていました。石や板を基礎（礎石・礎板）にすることはありますが、土器の破片を敷きつけて基礎とするのは珍しいことです。

さらに、大きさはさまざまですが、長楕円形の土坑が1,100基以上見つかっています。多くは不規則に重なり合っていました。長軸を北東～南西方向や西北～東南方向に合わせ、規則的に配置されていた一群もありました。

また、直径2～4m、深さ2～3mの大きな井戸が12基検出されました。2～3基が集中して重なり合うものが多く、繰り返し井戸がつくり替えられました。井戸枠は①木組み、②石組み、③両方あわせのものがあり、①の場合には補強材を何本も用いて丁寧につくられたものがあります。②の場合には石臼の破片を井戸枠に再利用したものがありました。



平成12年度調査区全景（北東から）



第2号井戸では、底に近い部分の石組みに意図的に石のない空間をつくり出し、お椀を伏せ置いていました。これは、井戸をつくる作業の安全や水が豊富に湧くことを祈って土地や井戸の神様が宿る空間を用意し<sup>12</sup>た跡と考えられます。このような井戸を構築する時の祭祀跡が検出されるのは珍しく、石組みの中に漆椀を組み込む形のは全国初の例となりました。

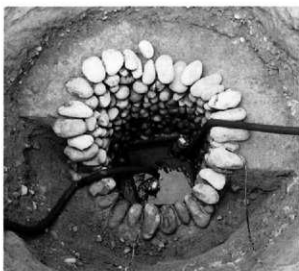
これまでの調査で、中世集落のほぼ全容が明らかになりました。県内をみても集落全体がわかる調査例は少ないので、本遺跡の発掘成果は越中の中世集落を考える上で重要です。溝で区画された中に建物を整然と建て並べ、川べりの傾斜を利用して鋳物生産を行うというように、人々は地形を利用して計画的に村づくりを行っていました。さらに、木組み井戸や柱穴などの構造には、人々が構築物を長持ちさせようとした知恵がしのべれます。生活に欠かせない井戸で行われた祭祀からは、人々の神様に対する信仰心の深さがわかりました。

本遺跡は神通川と井田川の合流点に近い水上交通の要衝にあり、周辺には白鳥城や大船城、安田城といった山城や平城がみられます。それらの城が利用された時期まで本遺跡は続いており、城への物資や食料の輸送・供給地としての役割を担っていたと考えられます。

平成12年11月23日に現地説明会を開催し、これらの成果を一般公開しました。地元の皆さんや研究者をはじめ、約100名の方々に悠久の歴史に触れていただくことができました。(小黑智久)



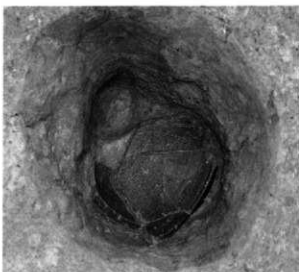
集中する石組み井戸



石組み井戸の構造



井戸祭祀に用いられた漆椀



柱穴の底から出土された珠洲焼

## 仏教の普及を示す<sup>新発見</sup>瓦塔製作工房

向野池遺跡は富山西インターチェンジの建設工事に伴って、昨年度から引き続き発掘調査を行っています。

向野池遺跡は、呉羽山丘陵と射水丘陵の間に位置します。緩やかな傾斜地に平安時代(約1,100年前)の土師器焼成遺構・井戸・溝・穴・掘立柱建物等を検出しました。

土師器焼成遺構は、土師器という素焼きの土器を野天で焼いた窯の跡で、6基を検出しました。直径約2mの楕円形プランで、10cm程度浅く掘りくぼめています。床面は硬く焼け、床のすぐ上から土師器の破片が敷き詰められたように出土しました。これは、失敗した土器を焼き台にして、温度が上がり易くしたのではないかと考えられます。

井戸は2基があり、いずれも直径約2m、深さ約1.8mです。1基の井戸からは土師質の瓦塔が出土しました。瓦塔は寺院の五重塔などの木造塔を粘土で模したミニチュアで、集落などでお堂のような施設の中に置かれ祭られていたと考えられています。今回出土したのは屋根部分(屋蓋部)3層分と、建物部分(軸部)の一部です。また、軸部の形態も珍しく、基段部分が円形に作られており、これまでに例がありません。市内の明神遺跡や長岡杉林遺跡から出土した瓦塔は、いずれも登り窯で焼いた須恵質のものでした。

またこの井戸からは、底部に穴をあけた小型の甕や、表面にヘラで「✳」の記号を刻んだ土器など完全な形に近い土器も瓦塔といっしょに出土しています。これらは一括して投棄されたもので、使わなくなった井戸を埋めるときに、井戸の神への感謝あるいは祟りを防ぐために行う井戸祭祀の一例と考えられます。

瓦塔は、土師器焼成遺構からも一部の破片が出土していることから、他の土師器といっしょに



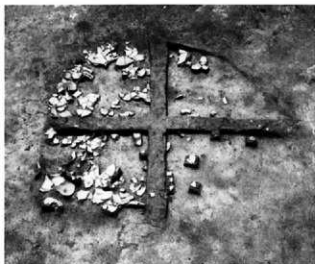
井戸に投げ込まれた瓦塔

この焼成遺構で焼かれたことがわかりました。製品としては使えないものを井戸祭祀に使用し、投げ込んだと考えられます。

以上のことから、この遺跡は瓦塔製作工房であり、掘立柱建物や井戸は、瓦塔や土師器を製作した工人たちの生活する住居と考えられます。

それまで須恵器で作られることが多かった瓦塔が、土師器でも作られたことは、仏教が平安時代の初め頃には、遺跡周辺にも広く社会に普及していたことを示しています。(原田幸子)

## 向野池遺跡



土師器焼成遺構

## 射水丘陵上の生産遺構

富山市開ヶ丘地区では、県営畑地帯総合土地改良事業に伴う調査を行っています。開ヶ丘地区は富山市南西部、射水丘陵の東端部にあたり、遺跡は標高約70mの丘陵頂部に位置しています。

開ヶ丘地区では、縄文時代中期の集落、奈良時代の竊業遺跡が確認されています。

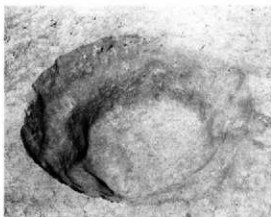
平成12年度は、開ヶ丘中山Ⅳ遺跡の発掘調査、開ヶ丘西・開ヶ丘中山Ⅴ遺跡の試掘確認調査を行いました。

開ヶ丘中山Ⅳ遺跡からは、縄文時代と奈良時代の遺構が見つかりました。縄文時代には、打製石斧が納められた土坑などがあり、縄文土器(中期)・石器が出土しています。遺構は散漫に分布していることから、山の幸を求めてのキャンプ的な生活の跡と考えられます。

奈良時代には、周囲の壁が焼けた直径1mほどの円形の穴(焼壁土坑)がほうほうに作られていました。このような焼壁土坑は簡易な炭窯と考えられており、近くに所在する大規模な製鉄遺跡(御坊山遺跡や北押川・墓ノ段遺跡など)と関連を持った施設ではないかと推定されます。

(近藤順子)

## 開ヶ丘中山Ⅳ遺跡



奈良時代の焼壁土坑

## 見つけた！縄文時代の粘土採掘場

北代遺跡は、富山市北代地内に所在します。遺跡は縄文時代中期の大集落遺跡として国の史跡に指定され、「北代縄文広場」として復元整備されています。

この広場の南側にある台地斜面の発掘調査では、今まで明らかでなかった縄文時代後期から晩期(約3,000年前)の粘土採掘穴群が検出されました。直径50cm～1.5m、深さ50cm～1mの円形の穴が約50基、重なり合った状態で検出しました。

縄文人は、土器の製作や堅穴住居の床に使う粘土が、比較的土の堆積の薄い斜面地で採掘できることを熟知していたようです。

採掘後の穴は次第に埋り、その陥没した窪みには、壊れた土器や石器、木の実や魚介類・動物の骨など食物の残り滓(かす)が捨てられました。赤塗りの土器や土偶、土版、岩版、三角とう形石製品、有孔球状土製品など、多くの呪術用具が壊されて廃棄されていたことが注目されます。

特に岩版には丸いくぼみやY字状の線刻で模様が描かれており、新潟県朝日村元屋敷遺跡で出土した人面付岩版によく似ています。このような製品の出土は、県内では初めてです。

(古川知明)

## 北代遺跡



粘土採掘穴群(斜面の下側から)  
右上奥は北代縄文広場

## 平成12年度 発掘調査一覧

(調査期) No.は市道跡番号を示す

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積(㎡)	時代	遺跡の種類
460	御坊山遺跡	池多	個人住宅建築	355	縄文・古代・江戸	集落
448	開ヶ丘中山Ⅳ	開ヶ丘紙袋	県営畑地帯総合整備	5,200	奈良	集落
250	水橋金広・中馬場遺跡	水橋中馬場	県営農道整備	920	古墳～江戸	集落・城館・古墳
525	吉岡遺跡	吉岡	住宅団地造成	1,575	縄文・平安・中世	集落
373	北押川・墓ノ段遺跡	池多	墓地造成	352	縄文・奈良	集落・窯
464	向野池遺跡	境野新	県道新設	2,100	旧石器・平安	集落・生産遺跡
464	向野池遺跡	池多	インター緑地整備	1,290	旧石器・縄文・平安	集落・生産遺跡
164	茶屋町西山遺跡	茶屋町	都市緑化植物園建設	329	旧石器・縄文	集落
125	北代遺跡	北代字大畑	個人住宅建築	131	縄文	集落
591	金屋南遺跡	金屋川口端	企業団地造成	10,500	平安～江戸	集落・生産遺跡
187	百塚住吉遺跡	宮尾	市道改良	270	奈良	集落
525	吉岡遺跡	吉岡	住宅団地造成	72	平安	集落
524	経力遺跡	経力	住宅団地造成	1,992	弥生・平安・中世	集落
576	上布目遺跡	上布目	土砂採取	190	縄文・中世	集落・墓地

## 平成12年度 試掘確認調査一覧

(調査期) No.は市道跡番号を示す

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査結果
535	関	関	個人住宅建築	溝(不明)
088	吉作北Ⅲ	吉作	個人住宅・納屋建築	土坑、溝(奈良) 土師器、須臾器等
494	太田本郷城跡	太田南町	駐車場造成	堀、掘立柱建物等(戦国) 土師器等
480	黒崎種田	黒崎字種田割	共同住宅建築	遺跡なし
066	願海寺城跡	願海寺字安ノ口	個人住宅建築	遺跡なし
444	開ヶ丘西	西押川字茨山	県営畑地帯総合整備	遺跡なし
448	開ヶ丘中山Ⅳ	開ヶ丘紙袋田	県営畑地帯総合整備	土坑(縄文)、溝、焼燼土坑等(奈良)
601	開ヶ丘中山Ⅴ	西押川字茨山	県営畑地帯総合整備	土坑、炭窯(奈良) 縄文土器、土師器等
479	黒瀬大屋	黒瀬字大屋割	駐車場造成、事務所建築、共同住宅建築	土坑、畑等(奈良)、土坑(平安)、土坑、溝、掘立柱建物(室町)
160	呉羽富田町	北代字伊佐波	個人住宅建築	遺跡なし
532	布市北	布市	駐車場・資材置場造成	遺跡なし
584	田伏・佐野竹	田伏	個人住宅増築	溝、土坑等(江戸) 縄文土器、越中瀬戸
240	若王子塚古墳	水橋中馬場	学術調査	古墳周溝、土坑、溝等(中世) 土師器等
156	北代中尾	北代字中尾	(鶴巻代アイビスセンター)建築	土坑等(奈良) 土師器
187	百塚住吉	宮尾	市道改良工事	土坑(古墳)、溝、土坑等(平安)
120	北代加茂Ⅲ	北代	個人住宅建築	竪穴住居(縄文) 縄文土器
480	黒崎種田	黒崎字寺田割	個人住宅建築	遺跡なし
480	黒崎種田	黒崎字塚田割	共同住宅建築	掘立柱建物跡、土坑、溝等(平安)
486	山室西田	山室字西田割	ゲートボール場造成	遺跡なし
517	石田北	石田	分譲宅地造成	遺跡なし
459	御坊山南	開ヶ丘字狐谷	農道整備	遺跡なし
460	御坊山	池多	農道整備	炭窯(奈良)
579	水橋入部	水橋二杉	倉庫・工場建設	遺跡なし
576	上布目	上布目	土砂採取	土坑(縄文・中世) 縄文土器、珠洲焼等
479	黒瀬大屋	黒瀬字大屋割	国税物納のための所在確認	遺跡なし
126	北代東	長岡字杉林	個人住宅建設	溝、穴(縄文) 縄文土器
576	上布目	上布目	個人住宅建築	遺跡なし 縄文土器
436	坂下新Ⅱ窯	坂下新	工場建設	遺跡なし
010	今市	布目	駐車場造成	穴(中世) 土師器

# 平成12年度埋蔵文化財センター事業

## 1. 埋蔵文化財発掘調査

- ・発掘調査 開発に先立って、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査を行いました。  
御坊山遺跡、岡ヶ丘中山IV遺跡ほか 14件
- ・出土品整理 発掘調査で出土した遺物や図面を整理し、報告書にまとめる作業を行いました。  
水橋金広・中馬場遺跡、宮町遺跡、栃谷南遺跡 3件

## 2. 北代縄文広場の管理

平成12年にオープンした北代縄文広場を市民に公開し、活用するため、管理運営を長岡校下自治振興会に委託しています。

## 3. 栃谷南遺跡保存委員会開催

栃谷南遺跡を保存し、将来的に史跡公園などとして整備・活用することに先立ち、関係機関や専門家、地元の人による保存・整備に向けての検討委員会（委員長・楠瀬 勝）を開催しました。

- 第3回委員会 平成12年6月2日(金) (国史跡小杉丸山遺跡視察、遺跡保存の基本理念・基本構想の具体的な検討)
- 第4回委員会 平成12年11月10日(金) (遺跡保存の基本理念・基本構想の答申)

## 4. 展示・普及事業

調査を行った遺跡の出土品の展示や現地説明会などを行ない、市民の方がたに公開しました。

### (1)発掘速報展

「発掘速報展2000 先人たちのいのりと生活」

- ・会場 富山市役所 多目的ホール 展示期間 平成13年2月15日(木)～2月23日(金)
- ・会場 富山市民俗民芸村 考古資料館 展示期間 平成13年2月27日(火)～3月31日(土)

### (2)遺跡現地説明会

- 水橋金広・中馬場遺跡 平成12年7月20日(木) 見学者 200名
- 金屋南遺跡 平成12年11月23日(木・祝) 見学者 100名

### (3)展示

展示名	テーマ	会場	期間	備考
奥田小学校ふるさと考古資料展示室第5回展示	「江戸時代の富山」	奥田小学校	12.5.26 ～13.3.31	金屋南遺跡・清水堂B遺跡ほか市内6遺跡の出土品の展示
第1回奈良時代の富山を探るフォーラム関連企画展	「水橋の遺跡物語」	財団法人水橋郷土資料館 第3展示室	12.9.12 ～12.10.9	水橋荒町遺跡・清水堂南遺跡出土品の展示
上条公民館まつり	「水橋清水堂地内遺跡出土品展」	上条公民館	12.11.3	清水堂南遺跡ほか出土品・写真パネルの展示

### (4)資料貸出

貸出資料	点数	貸出先	貸出目的
水橋金広・中馬場遺跡、若王子塚古墳、清水堂古墳、清水堂南遺跡、清水堂A・B・C遺跡ほか発掘調査写真	40	富山市水橋上条公民館	「ふれあい広場」 (12.8.4～12.8.7)
北代遺跡タカラ貝形土製品ほか	3	浜松市博物館	第19回特別展「古代の装い—古代人とアケセキラー—」 (12.9.23～12.10.29)
栃谷南遺跡軒丸瓦、米田大塚遺跡墨書土器、豊田大塚遺跡人面墨書土器、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡土師器ほか	9	高岡市立二上公民館	「高岡市埋蔵文化財展2000—万葉時代の高岡—」 (12.9.24～12.10.2)
豊田大塚遺跡人面墨書土器	1	財団法人元興寺文化財研究所	秋季特別展「元興寺の復興—世界遺産への道—」 (12.10.29～12.11.12)

### (5)講演

日時	講演者	講演会名	演題
12.5.12	藤田所長	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「邪馬台国と日本海沿岸のクニグニ」
12.5.13	藤田所長	大阪府立弥生文化博物館 第7回共同研究会	「弥生時代の交流」
12.5.26	藤田所長	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「高志の王国の成立」
12.6.9	藤田所長	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「遺跡から見た社団の展開」
12.6.18	藤田所長	長岡小学校・PTA 学習参観・過程教育学級	「北代遺跡と縄文人の暮らし」

12, 6, 23	藤田所長	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「古代の越中国を支えた人々」
12, 7, 14	小林学芸員	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「北陸道を中心とした越の交通—富山市水橋荒町・辻ヶ堂遺跡の発掘調査から—」
12, 7, 28	藤田所長	21世紀中国考古学と世界考古学国際学術シンポジウム（於・北京）	「日本列島の琉球耳飾起源研究の現状と展望」
12, 9, 8	鹿島学芸員	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「越の商業生産—富山市榑谷南遺跡の瓦から—」
12, 9, 22	鹿島学芸員	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「仏教文化の普及—富山市榑谷南遺跡の仏教遺物から—」
12, 9, 23	小林学芸員	第1回奈良時代の富山を探るフォーラム	「富山市水橋荒町・辻ヶ堂遺跡について」
12, 9, 26	藤田所長	高岡市埋蔵文化財展2000 考古学フォーラム「万葉時代の高岡を語る」	「古代北陸道を復元する」
12, 9, 30	鹿島学芸員	高岡市埋蔵文化財展2000 遺跡調査報告会	「富山市榑谷南遺跡」
12, 10, 11	藤田所長	財大版市埋蔵文化財調査研究センター平成12年度文化財講座	「古墳出現期のコシ文化」
12, 10, 13	吉野経子学芸員	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	現地学習（民部民部村考古資料館・遺跡発掘調査見学会等）
12, 10, 15	藤田所長	浜松市博物館 第19回特別展関連講演会	「ヒスイ玉の製作と流通」
12, 10, 27	福沢学芸員	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「越中国の律令祭祀—富山市豊田大塚遺跡の祭祀から—」
12, 11, 10	福沢学芸員	市民大学・市民の考古学「高志の国の成立と発展」	「富山市南部の閉塞—富山市任海宮田遺跡の石帯と墨書土器—」
12, 11, 25	小林学芸員	第13回北陸中世考古学研究会	「最近の発掘調査 銚造遺構と工務」
13, 1, 29	鹿島学芸員	富山県埋蔵文化財センター研修	「富山市水橋金広・中馬場遺跡、若王子塚古墳」
13, 1, 31	鹿島学芸員	平成12年度富山考古学会総会	「富山市水橋金広・中馬場遺跡、若王子塚古墳の発掘調査について」
13, 3, 24	藤田所長	小矢部市立東部公民館講演会	「竊取玉の生産と交流」
13, 3, 31	藤田所長	日本海学シンポジウム	「日本海学と新世紀の文明の創造」

## (7)その他

### ①社会に学ぶ14歳の挑戦

学校名	期 日	内 容	参加者
新庄中学校	12, 6, 19～6, 23	金屋南遺跡発掘調査	4名
東部中学校	12, 6, 19～6, 23	金屋南遺跡発掘調査	4名
三成中学校	12, 6, 19～6, 23	水橋金広・中馬場遺跡発掘調査	2名
奥田中学校	12, 6, 30～7, 5	埋蔵文化財センター業務、金屋南遺跡発掘調査	2名
呉羽中学校	12, 7, 10～7, 14	金屋南遺跡発掘調査、北代縄文広場管理	5名
富山大付真中学校	12, 7, 11～7, 12	金屋南遺跡発掘調査、北代縄文広場管理	5名
北部中学校	12, 9, 25～9, 29	金屋南遺跡発掘調査、北代縄文広場管理	2名

### ②体験発掘

星井町児童文化センター遺跡発掘体験教室

期 日 平成12年8月4日(金)  
場 所 金屋南遺跡  
体験内容 発掘調査の体験  
参加者 3～6年生20人

### ③職場体験

富山県立小杉高等学校第1学年職場体験

期 日 平成12年7月6日(木)  
場 所 金屋南遺跡  
体験内容 発掘調査の体験  
参加者 2名

### ④研究会参加等

文化財保存全国協議会夏の見学会（北代縄文広場見学会等）

第33回歴史考古学研究会「榑谷南遺跡—瓦陶葉薬壺と大量の軒丸瓦の出土」

会場：帝塚山大学 考古学研究所

平成12年9月10日(日)

第103回北陸古代土器研究会（榑谷南遺跡出土品検討） 会場：本センター 平成13年2月17日(日)



金屋南遺跡の体験発掘—社会に学ぶ14歳の挑戦

⑤富山シティFM/サンセットシティ・物知り富山学「富山の遺跡とロマン」(4月～9月、毎週金曜日放送)

回	担当	テーマ	回	担当	テーマ	回	担当	テーマ
1	堀沢学芸員	富山の遺跡とロマン	9	堀沢学芸員	人の顔が書かれた古代の土器	17	古川主任学芸員	縄文人はどんな暮らしをしていた?
2	小黒学芸員	中世人の暮らし	10	小黒学芸員	古墳が造られた時代	18	藤田所長	縄文の巨大住居と暮らし
3	近藤学芸員	武士の館	11	小黒学芸員	古墳の副葬品	19	近藤学芸員	縄文土器の美しさ
4	小林学芸員	中世の織物の村	12	鹿島学芸員	はにわのはなし	20	小林学芸員	縄文人がつくった石の道具
5	小林学芸員	京都で作られた中世の鎌	13	原田学芸員	弥生の村	21	原田学芸員	縄文人がつくった骨の道具
6	鹿島学芸員	古代の瓦生産	14	安達囃託	弥生の玉つくり	22	安達囃託	縄文人は何を食べていたの?
7	鹿島学芸員	古代の仏教遺物	15	近藤学芸員	弥生の墓	23	藤田所長	縄文ヒスイと装い
8	堀沢学芸員	古代に文字を書く人々	16	古川主任学芸員	縄文文化のはじまり	24	古川主任学芸員	初めての富山の住人(1)
						25	古川主任学芸員	初めての富山の住人(2)

## 5. 遺跡除草管理

境野新遺跡、古沢塚山古墳、栗山古墳、押上古墳

## 6. 北代縄文広場この1年

### (1)紹介

三井グラフ Vol.119 特集縄文の世界 立ち寄りガイド 北代遺跡  
 みらーれ No.22 (北日本新聞富山市内ミニコミ紙) ぶらり・とやま  
 国史跡北代遺跡 北代縄文広場

網野善彦・壽浩一 2000, 4 『この国のすがたを歴史に読む』大巧社  
 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財ニュース No.94 『13. 富山市北代縄文広場』  
 林謙作・岡村道雄 2000, 4 『縄文遺跡の復元』学生社

### (2)できごと

平成12年4月29日(土) 北代縄文通信第5号発行	平成12年7月31日(月) 北代縄文通信第6号発行
平成12年4月28日(金)～6月8日(木) 遺報展コーナー 「金屋南遺跡出土の馬具」	平成12年6月11日(金)～8月13日(日) 縄文アドベンチャーキャンプ(清水町校下)
平成12年5月27日 長岡地区連合老人会除草奉仕	平成12年9月23日(土) 糸魚川市長省ヶ原遺跡友の会との交流会
平成12年7月15日(土)～7月17日(月) ボランティア視察研修(九郎方面)	平成12年10月24日(火)～26日(木) 富山県立雄峰高校特別講座
平成12年7月21日(金)～7月23日(日) 縄文アドベンチャーキャンプ (豊田校下)	平成12年11月1日(木) 富山西ライオンズクラブイベント寄贈
平成12年7月28日(金)～7月30日(日) 縄文アドベンチャーキャンプ (長岡校下)	平成12年11月11日(土) 長岡小学校郷土探訪
平成12年7月29日(土) 神通ライオンズクラブ用具寄贈、除草奉仕	平成12年11月12日(日) 長岡校下消防訓練
	平成12年1月23日(火) 北代縄文通信第7号発行
	平成13年2月4日(日) 北代縄文広場で雪まつり



北代縄文広場で火おこし体験

## 7. 研究

### (1)小研究会(会場:埋蔵文化財センター会議室)

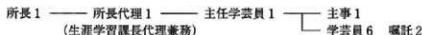
- ・山武考古学研究所 湯原勝美氏 「富山市水橋金広・中馬場遺跡の調査について」  
平成12年4月17日(月)
- ・埋蔵文化財センター 堀沢学芸員「埋蔵文化財写真とは」、小黒学芸員「写真測量の現状と課題」  
平成13年2月15日(木)

### (2)論文・報告

- ・古川知明 2000, 2 『13. 富山市北代縄文広場』奈良国立文化財研究所埋蔵文化財ニュース No.94  
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター
- ・小黒智久 2000, 3 「宮内庁書陵部所蔵の「新潟県佐渡郡相田町鹿伏山出土品」の研究—資料の一括性と由来をめぐって—」『新潟考古』  
第11号 新潟県考古学会
- ・鹿島昌也 2000, 3 「富山県道路遺構集 7 水橋二杉遺跡」『大塚』第20・21号 創立50周年記念合併号 富山考古学会
- ・小林高純 2000, 3 「富山県道路遺構集 6 水橋尻町遺跡 14 金屋南遺跡」『大塚』第20・21号 創立50周年記念合併号  
富山考古学会
- ・酒井謙洋 2000, 3 「富山市長岡村遺跡(八町遺跡)出土の遺物」『大塚』第20・21号 創立50周年記念合併号 富山考古学会
- ・原田幸子 2000, 3 「富山県道路遺構集 15 安曇寺遺跡」『大塚』第20・21号 創立50周年記念号 富山考古学会
- ・藤田富士夫 2000, 3 「特集 とやまの野 巫談会」『藝文とやま』28号 財団法人富山県芸術文化協会
- ・古川知明 2000, 3 「富山県道路遺構集 8 宮町遺跡・9 小西北遺跡 11 四方北遺跡 17 野下遺跡・18 新開遺跡」『大塚』  
第20・21号 創立50周年記念合併号 富山考古学会

- ・塩沢祐一 2000, 3 「富山県道遺跡集 10 兼田大塚遺跡」『大塚』第20・21号 創立50周年記念会報号 富山考古学会
- ・矢沢千鶴子 2000, 3 「熊鷹の野」『鑑文とやま』28号 富山県芸術文化協会
- ・林謙作・岡村謙雄 2000, 4 『縄文遺跡の復元』学生社
- ・藤田富士夫 2000, 4 「大地の語り シリーズ第1回 土まき屋根の縄文住居」『鑑光とやま』No.79 富山市観光協会
- ・赤澤徳明 2000, 6 「1999年の考古学界的動向 弥生時代 中部・北陸」『月刊考古学ジャーナル』No.460 ニュー・サイエンス社
- ・出月洋文 2000, 6 「1999年の考古学界的動向 古代 中部」『月刊考古学ジャーナル』No.460 ニュー・サイエンス社
- ・鹿島龍也 2000, 7 「若王子古墳（水橋）の意義」北日本新聞 7月27日朝刊文化欄
- ・藤田富士夫 2000, 7 「大地の語り シリーズ第2回 巨石の語りと願い」『鑑光とやま』No.80 富山市観光協会
- ・木造雄雄研究フォーラム 2000, 7 「第37回公開フォーラム 先史時代の木造建築技術」
- ・久々義典 2000, 9 「富山県内の古代道路遺構について」『第1回「奈良時代の富山を探る」フォーラム資料』第9号 富山市教育委員会
- ・小林高純 2000, 9 「富山県水橋町可・辻ヶ堂遺跡について」『第1回「奈良時代の富山を探る」フォーラム資料』富山市教育委員会
- ・小林高純 2000, 9 「京都で作られた中世の鏡 富山県金屋南遺跡の調査から」『鑑文とやま VOL.72』富山県埋蔵文化財センター
- ・財団法人元興寺文化財研究所 2000, 9 「史跡北代遺跡出土有孔銅付土器付著の赤色顔料分析報告書」『富山県考古資料館No.38』富山県考古資料館
- ・ジャパン通信情報センター 2000, 10 「富山県富山県水橋金広・中馬場遺跡」『文化財発掘出土情報2000,10』ジャパン通信情報センター
- ・藤田富士夫 2000, 10 「大地の語り シリーズ第3回 姿を現した大型円墳」『鑑光とやま』No.81 富山市観光協会
- ・藤田富士夫 2000, 10 「紅山文化と縄文文化の玉器交渉」『自然と文化』64 朝日日本ナショナルトラスト
- ・小林高純 2000, 11 「富山県金屋南遺跡の発掘について」『中世北陸の石帯・石仏』第13号 北陸中世考古学研究会 資料集
- ・藤田富士夫 2000, 11 「観音平古墳群を見学して」『新潟県考古学会連絡紙』46
- ・朝日新聞社編 2000, 12 「金屋南遺跡、水橋金広・中馬場遺跡」『アサヒグラフ別冊 古代史発掘まぐり』2000
- ・小松外二 2000, 12 「郷土史発掘 水橋の駅について」『水橋郷土資料館だより』No.22 財団法人水橋郷土資料館
- ・藤田富士夫 2000, 12 「第1回「奈良時代の富山を探る」フォーラム「古代の道と駅」に参加して」『連絡紙』113号 富山考古学会
- ・藤田富士夫 2001, 1 「大地の語り シリーズ第4回 中世文学に白鳥城が！」『鑑光とやま』No.82 富山市観光協会
- ・櫻積裕晶 2001, 3 「双耳堂再論—その成立と用途に関する一考察—」『古代学研究』152 古代学研究会

## 8. 埋蔵文化財センター組織



①埋蔵文化財調査費	164,496千円	発掘調査7件、出土品整理3件、市内試掘確認調査、市内出土品整理
②体制整備・一般管理費	67,522千円	
③普及活動費	975千円	「奈良時代の富山を探る」フォーラム、発掘連絡紙
④遺跡・史跡保護管理費	8,173千円	北代縄文広場管理、柳谷南遺跡保存委員会
⑤調査委員会経費	160,300千円	

## 考古資料と「発見」

埋蔵文化財センター所長 藤田 富士夫

遺跡調査の報道で、ときおり「発見」と書かれることがある。字引で「発見」とは、「まだ知られていないものをはじめて見つけ出すこと」とあり、用語例として「新種を発見する」とある（『角川最新国語辞典』）。  
 かつて高松塚古墳の壁画が世に出た時、末永雅雄博士は、「壁画は元々そこにあったもので、だれが掘っても見つかったはず」として、「発見」の報道は適切でないとした。

明治の文豪、夏目漱石に「夢十夜」の小品がある。第六夜に、運慶が仁王像を刻んでいるのを、やじ馬が評して「眉や鼻を鰐で作るんじやない。あの通りの眉や鼻が木の中に埋まっているのを、鰐と槌の力で掘り出すまでだ」というのがある。漱石が描く運慶の彫刻技は、遺跡の発掘そのものと通じている。

運慶の彫刻を「発見」と言う人はいないだろう。末永博士の主張は、正論だと思う。私は、「発見」の二文字に接する時、いつもそれが用いられている通否を吟味することとされている。

富山県教育委員会 埋蔵文化財センター所報 No.2  
富山県の遺跡物語

平成13年3月30日

編集・発行/富山県教育委員会 埋蔵文化財センター  
〒930-0803 富山県下新本町5-12  
TEL076-442-4246 FAX076-442-5810  
E-mail : maizoubunka-01@city.toyama.toyama.jp

(表紙写真) 梶 勝雄氏 撮影